

もののけ姫が問いかける命のリレー（その2）

～無菌主義の弊害～

人は菌との闘いを繰り返す。新型肺炎サーズ、鳥インフルエンザ、腸球菌
新たな抗生物質は次から次と開発されるが、抗生物質多剤耐性菌は菌を殺そうとすればするほど、種類も数もさらに増える。人類が抗生物質を発見し、菌に戦いを挑んで70年、勝敗は決まろうとしているのに恐怖感だけがむなしく残る。そして、極端な「無菌思想」が人の心と生活習慣に蔓延した。

微生物は、30 数億年前、地球が生まれてほどなく誕生、生命の最小単位だ。人はこの微生物（菌）のパワーをいただくことで元気に生命をつないできた。
味噌、醤油、たくあん、梅干し、みんな菌の発酵食だ。土の中に存在する菌、その生理活性物質を吸収して元気な野菜は育ち、人はそれをいただき命をつなぐ。つまり微生物（菌）は私たちそのもののものだ。なのに菌はなぜ私たちの命を脅かす？

菌は「もののけ姫」に出てくる「しし神」だ。
しし神が触れたものは、ある時はそこは生命の泉となり、またある時は死の山となる。しし神は、主人公の「アシタカ」に生命力を与え、イノシシの神「おっとこぬし」の生命力を奪いもした。そして、こう言う。

「しし神は命を与えもするが奪いもする」。

野菜の生長点（株元）のよみがえりの話、覚えていますか？ニンジンのくずを土に戻す菌は老化したニンジンの葉、硬そうな茎、人間の食べたくない部分を10日で跡形もなく食べ尽くす。しかし、生長点付近は食べない。そこから命は復活した葉を伸ばす。つまり可能性のないものは食べ尽くし、可能性のある命は助ける。しし神はとは「菌」であり、地球の循環の法則を体現している。

ならば、どうしてしし神（菌）は柔らかく美味しそうな部分を食べない？
そこはしし神そのものだから。しし神（菌）の生命力パワーが集中しているところだから。私たちが不健康であれば菌（しし神）は体の掃除に来るし、見込みがない命は速やかに新しい命の材料とする。そうやって命は循環するのだ。
そうだとしたら、病気から私たちがのがれるためには病原菌を殺すことではなく菌と繋がってもっと元気になること。

地球の命、つまりしし神（菌）とつながっていない人は、いつかはしし神に命を奪われる。
地球の命は生長点に集中し、種や発酵食品に凝縮。これらを食べない弱い人間は、つまりし
し神とのつながりを切った人間にしし神は判断を下すのだ。アシタカは言う。

「しし神は死にはしないよ。命そのものだから。生と死を二つとも持っている」
「私に生きろと言ってくれた・・・共に生きよう」と。

これは私たちに何を問いかけるのか？」しし神（菌）を敵に回し、共に生きることやめ、
戦うことをやめない人類は一体どうなるのか。

その答えは「風の中のナウシカ」に・・・・・・・・Be continued

～吉田俊道氏・西日本新聞掲載「食育革命」より転載・追補修正